平成20年12月1日
［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成20年12月1日

【評価実施概要】

事業所番号	0371100249
法人名	医療法人　楽山会
事業所名	グループホーム　ハイムはまゆり
所在地	釜石市小佐野町3丁目9番2号 （電　話）0193－23－2036

評価機関名	財団法人　岩手県長寿社会振興財団		
所在地	盛岡市本町通3丁目19－1		
訪問調査日	平成20年10月22日	評価確定日	平成20年12月1日

【情報提供票より】(20年 10月 29日事業所記入)

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成　12年　4月　1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	6　人	常勤　6　人、非常勤　人、常勤換算　6 人

（2）建物概要

建物構造	木造平屋　造り
	1 階建ての　1 階　～　1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	17,100　円		その他の経費（月額）	円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	200　円	昼食	250　円
	夕食	350　円	おやつ	70　円
	または1日当たり　円			

（4）利用者の概要(9月 29日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1	名	要介護2	4	名
要介護3	3	名	要介護4	1	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	85.1 歳	最低	81 歳	最高	94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	せいてつ記念病院　　かまいし駅前歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体施設である老人保健施設、病院、特別養護老人ホームに隣接している。「ハイムはまゆり」の看板を見落とすと、場所がわかりにくい所に位置しているが、日当たりはよい位置である。「回廊型」で食堂・ホールを中心として、周囲が居室となっている。どの位置からも全体を見回せるような環境である。季節感を漂わせるような装飾など工夫が見られる。派手さはないが不快感を持たせないような気配りをしている。個々の入居者の生い立ちや人生観を大切に尊重しており、ケアの気配りの中にもさりげないような温もりが感じられる。職員は全員が常勤であり、身分保障もなされている。重度化した場合も母体施設で支援できるという安心感が充実感を漂わせている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の評価では、災害対策において、夜間の訓練の検討を期待したが、実行されている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

今回の自己評価では全てできているとなっている。前回よりも更に良質なケアの確保、向上への取り組みがされている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

参加する方々は地域の理解ある人であり、母体法人の役職も兼ねている。通常はホームの実情を説明し、課題に対しては協力して頂ける態勢となっている。しかし、限られた方々での会議になると新鮮な情報が得にくい場合もあり、形骸化が心配される。グループホームの将来も含めて、認知症高齢者の問題や地域で理解を深める問題など積極的な情報発信の役割が期待される。そのためには、推進会議の中での活発な議論が望まれるところである。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

隣接する老健、病院があり、重度化した場合にも対応して頂けることが安心感となり、全てを依存した関係がある。開設時はバックアップ施設をもつ法人しか設置を認められなかったので、地域密着型サービスの理念とは隔たりがあるような印象である。しかし、管理者や職員の努力で本人や家族の願いを把握するように努めて成果を上げている。概ね不満や苦情は見られない。要望は適切に受け止められて運営に反映されている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

地域や町内会との連携・協力が大切であると考え、積極的な参加、交流、交歓を展開している。避難訓練、災害時の対応には地域住民の協力が不可欠である。以前は隣接していた学校生徒との交流があったが、移転により訪問やボランティアの方々との交流は少なくなった。行事の際の交流や外出、買い物時等々日常的な交流を通じて連携を広げていきたいと考えている。

2.　評 価 結 果（詳 細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念の中心である「住み慣れた地域において、家庭的な環境を大切にし、その人らしく自立生活ができるように支援する」に加えて、地域密着型サービスの意義を地域の一員として、尊厳をもって生活することと捉えて、地域との関わりを一段と重視した理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や職員の心構えについては、全職員が見やすい場所に掲示したり、朝夕の申し送り時、ミーテングの都度、それぞれが自覚的に反復するように心がけている。以前は、全員で反復して確認していたようだが、大切なことなので継続していくように助言する。	○	理念の全職員への周知については、継続することが大切なので、管理者、職員が一緒になって反復して確認していくようにされたい。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の会員になって行事などに率先して参加している。地域の敬老会や消防訓練等にも参加している。地域の方の主体的な奉仕活動（例えば月1回お化粧をする）やボランティアの訪問も受け入れている。「地域防災相互協定」を地区町内会長と法人理事長で取り交わしている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	3ヶ月毎に評価し、ケアプランを作成している。介助の方法を検討したり、3食後の歯磨きや口腔ケアの支援によって、風邪を引くことがなくなったり、歯科通院が少なくなった効果がある。歯科衛生士などとの連携をもって支援している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内の有識者は必ず参加している。母体である医療法人への協力者もいる。地域・町内会の協力を得て、防災訓練を実施することができた。医療や保健・福祉の社会資源が整い、活用を図っていく点では恵まれている。	○	テーマを設定して、参加者を依頼するなど工夫が必要。地域に住む、さまざまな立場の方々の理解と協力を得ていくような取り組みに期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者が運営推進会議に参加している。利用者も交えて1時間程度である。途中でお茶の時間も入れて和やかな雰囲気で情報交換している。「介護相談員」の活用も図っている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	心身の状態の変化や通院の時など常時、連絡して了解を得て進めている。財産管理はしていない。小遣い銭の預かり金は金銭出納簿で処理する。家族が訪問された時コピーして渡し、確認の捺印をもらう。利用者の中には、今はグループホームにいるが将来は特養ホーム入所を希望している方もいる。介護の負担が増せば老健施設へ移行するが、家族もそれを望み、了解している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ参加した時や家族会等で意見や要望を出せるように説明している。併設の母体施設内に投書箱を設置して苦情・不満等の受付をしている。具体的な案件は少ないのが実情である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	隣接して母体の医療法人の施設がある。ホームには常勤職員が配置されており、好条件の中で退職することも無く、なじみの支援は大切にされて維持継続されている。法人全体の異動もあるが、ホームに限っては管理者の意向も配慮され、利用者のためにはよい結果となっている。	○	恵まれた労働条件での取り組みは貴重な実践である。こうしたノウハウを、これから開設するグループホームの関係者に教授して、全体的にグループホームの質が高まるように発信していただきたい。
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	岩手県グループホーム協会の研修会、母体施設の研修会など開催案内や情報を見ながら、参加するように配慮されている。参加できない職員には伝講会等を行い、報告している。介護福祉士などの資格取得に向けた研修なども実施しているが、年間通じての職員研修計画は作成されていない。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や他のホームの見学、交換研修など実施している。研修の受入れは常に開放的である。先駆的な取り組みやよい情報があれば、積極的に参加したり、取り入れる姿勢がある。質の向上のためには貪欲に全員で取り組む必要性を理解している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望があれば、家族と一緒に見学してもらい、納得のうえ快く利用できるように雰囲気作りに心がけており、利用開始したらすぐに溶け込めるように配慮している。また、家族から本人のバックグランドを聞き取り、本人の生い立ちや人生観を考慮しながら、日課や日常の支援に活用していけるよう工夫した支援に心がけている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームに生活する方々の穏やかな暮らしを大切にし、人間関係が円滑にいくように配慮している。個々の方々の言葉や表情を観察し、常に確認しながら適切なケア・支援をしていくことを考えている。日常の生活を協力して作り上げる努力をする中でお互いに学びあうことを大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人のこれまでの生活や暮らしを配慮し、受け入れて、できることから支援するように心がけている。できないことややりたくないことは、無理強いしない。ありのままを受け止めて、時間をかけた支援し、頑張ってできたり、取り組んだことは認め合い共感するように心がけている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に1回、ケア会議を開催。計画の見直し等、全職員が参加して検討している。その際、本人・家族の要望も聞きながら計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	業務日誌は、日中は「黒ペン」で、夜間は「赤ペン」で記載するように統一されておりわかりやすい工夫をしている。バックグランドを重視して、家族、関係者からのヒアリングで記述する。本人が何か思い出した時には、その都度記述するよう努めている。独居生活の期間が長かった方からは情報を聞き出せないことが多い。センター方式は採用していないが、研修は受けている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体施設や病院が隣接しており、通院など待たないで診察してもらえる環境が、本人や家族に好評となっている。外出やレクリエーションの企画の際にもマイクロバスや公用車の利用が容易にできる。母体施設の機能をフル活用した形での支援が重厚である。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ廊下で繋がっているような感じで病院が隣接しているメリットを活かしている。定期的な健康診断や歯科検診は優先的である。主治医や担当医などの適切な医療を受けるには最適な条件となっている。家族も安心している。職員は6名だが、安心した支援ができる源になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の最も心配される問題であるが、隣接の施設や病院において対応することが周知されている。入所時にも説明されるが、本人や家族も了解している。グループホームとして寝たきりの方のケアやターミナルケア等については、理事会等の方針もあり、無理をせず隣接の病院等で看ることが明確になっている。職員にとっても精神的な負担の軽減に繋がっている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の誇り、自尊心に配慮した対応に心がけている。入浴は毎日入れる設定をしているが、どうしても入浴したくない場合は、本人の意思を尊重して対処している。介助を求める方が多いので、2名の職員で対応している。清拭も同様である。羞恥心などにも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の思いや意思を最大限に尊重して取り組んでいる。皆で楽しく食事をする。食後に必ず歯磨きをする。生活習慣についてはキチンとした対応をしていく姿勢が見られる。食事作りや畑・園芸作業などには関心・興味のない利用者が多いため、声かけはするが決して強要しないスタンスである。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理・準備などは「今までに十分やってきたから」と言って消極的な方が多い。片付け、掃除などできる範囲で参加するよう促している。パンや麺類は好まない方が多く、献立にもない。「ご飯と味噌汁」だけで十分という方が多く、個々の意向に沿った支援となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴することを敬遠したり、習慣化していないために拒否的なこともある。「毎日ではなく1日おきでもよい」と要望する家族もいるので、強要せず、自らが入浴したい時に入れるように体制を整えている。洗体や洗髪なども一切を介助している。そうした支援で清潔や健康などが保持されている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の楽しみである趣味や得意なことは活かすよう努めている。役割も予め決めているわけではないが、その場の状況に合わせて声かけをし、お願いして実施している。職員が主導で活動しないと、なかなか生活全体が機能しない状況である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	母体施設に専用のマイクロバスがあり、いつでも利用できる環境にあり、買い物・外出などの希望があれば、いつでも対応している。恵まれた条件が整っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、基本的に施錠しないが、利用者の安全確保・維持のために必要な場合には施錠もやむをえないと考えている。夜間に1人勤務になった時間帯には施錠している。夜勤は、布団の動きで安否確認したり、健康状態を把握している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の母体施設や医療法人全体での合同で行う避難訓練を実施。利用者も参加している。夜間の避難訓練も独自で実施。運営推進会議の機会に、町内会の方も参加するがハイムの実情を説明するとともに、災害時の避難協力についての協力など要請し、関係づくりに努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日牛乳を提供しているが、飲めない方には野菜ジュースを提供する。肉類など単品では食さないが、丼物にすると食べるので工夫している。バイキングなどは、1つの物しか食さない傾向が見られる。栄養のバランスには気配りをしている。専業主婦だった方が多いので、お茶飲みやおやつなどが楽しみになっている。管理栄養士の助言も得ている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始当初、慣れない利用者は独居時代の習慣で内鍵をかける等が見られるが、安心した生活が確保されると落ち着いてくる。廊下には飾り付けや壁画をしたり、季節感も取り入れた配慮をしている。回廊型のため、全体を見やすい環境に設定されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人所有の家具類、神棚・仏壇持込など本人の意向を尊重した取り組み、利用者が不快にならない、皆が生活しやすい住環境にさりげない工夫をしている。その方の最も居心地のよい状態を見守るように支援している。		